

1. 評価結果概要表

作成日 2009年4月2日

【評価実施概要】

事業所番号	0870300969		
法人名	有限会社 和晃		
事業所名	グループホーム 和晃		
所在地	茨城県土浦市若松町5-28 (電話) 029-826-1628		

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市元石川町2523-3		
訪問調査日	平成21年4月2日	評価確定日	平成21年6月17日

【情報提供票より】(平成 21年 2月 28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月7日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	5.7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	8 名	男性 1 名	女性 7 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 81.6 歳	最低 78 歳	最高 88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 青州会 神立病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街から少し離れた住宅街の一角にごく普通の戸建てといった雰囲気があるホームとなっている。木造平屋のホームは、玄関も住宅と似たつくりになっており、自然に入ることのできるつくりになっている。利用者職員は、同じ屋根の下で一緒に生活する家族という理念の下職員全体が一丸となり高齢者の支援を行っている。外出や買い物などは、住宅街を抜け近所に声をかけながら歩いていくといった工夫など地域に根ざす配慮が随所に見られた。また近所の住人と一緒に、利用者がホーム裏の広い家庭菜園を世話するなど、地域とのかかわりの深さや地域住人の理解を感じることができた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	災害対策に対する取り組みについて、備蓄品非常食、毛布、飲料水の確保などを行い大規模災害に備えるほか、月に一度職員による点検が行われている。理念の明確化、掲示について見やすい位置に掲示し職員に浸透するよう、管理者が折を見ながら職員に伝えているなど取り組みが行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年の外部評価での指摘もあり、今回の外部評価では職員全体で取り組みが行われている。外部評価の意義を管理者から職員に伝え、職員が個々に理解し自己評価項目を各自で取り組みまとめる作業が行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に一度の割合で開催され、議事録となっている。現状では会議の内容やテーマの選択に苦労されている面もあるが、今後推進会議を開催するにあたり積極的な意見交換ができるよう工夫する予定となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や苦情については、管理者をはじめ職員が面会時に直接聴取する方法を用いている。具体的な苦情や意見は今のところあまり無いが積極的に家族への意見の聴取を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域連携に力を入れており、日常の散歩などの時に高齢者の住宅に立ち寄り、お茶をいただく場面があったりと地域の理解を得ながら地域と共存したホームの取り組みが伺えた。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者も職員も家族の一員やれることは自分でやっしていこう。というニュアンスのホームの理念は、玄関の見やすい所に掲示されており、訪問者がわかりやすいように配置されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は管理者を中心に、職員間で啓発され日々の支援が理念を元に提供されるよう配慮され職員も理解し実行している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との連携は付き合いに特に力を入れ利用者が安全に自由に快適に営めるよう地域とのかかわりを意識した工夫がある。またホーム内の菜園を近所の住民と利用者が一緒に世話をするなど地域とのかかわりが日常化するよう努力されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心に職員が全体で評価の意義や内容を理解し、自己評価を職員全体で取り組まれている。取り組み後の具体的な変化については検討している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度行っている。テーマや議題についての提示には苦勞されているようだが、時期や開催について積極的に活動されている。		

茨城県 グループホーム和晃

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、行政との連絡役の中心となって、電話や書面での連絡であってもなるべく行政に足を運び連絡を取るように心がけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に直接対話し家族への連絡をするほか手紙やホーム便りなどを利用し近況報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は、直接聴取する方法をとるようにしている。昨年実績は無いが家族会を作り家族が集まり意見を出せる工夫がある		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は無い		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は、日勤扱いとして研修に参加させている。人数の調節もあるため、やや少な目の研修実績となっている		職員が出席した研修について今後は、研修報告会を開催された際に報告書の保存が望まれる
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会に出席し管理者間での情報交換を行っている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染みながら入居できるよう体験入所などを受け入れできるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴を独自のシートに記載し利用者個々の把握に努め介護スタッフからの提供だけではなく利用者からも教えていただけるよう工夫している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向を聞き入れ事業所の時間に利用者を含ませるのではなく、利用者の時間でホーム内の時間が流れるよう配慮されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的にヘルパー会議を行い課題を話し合い解決に取り組まれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ヘルパー会議を行い課題の解決見直しが行われ、計画に記載されている。	○	今後はヘルパー会議の内容を記載しその内容に沿った計画の見直しが行われるよう配慮工夫されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所ではその独自性と、機能、地域への関係性を持って介護保険の説明会や入居時の手続きなど地域への啓発を積極的に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は、家族と相談のもと有料の提供となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、医療依存のある利用者については原則病院への入院を勧めている。	○	重度化や緊急時の配慮を今後工夫され同意書などの整備が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報などは事務所の書庫に保管され手織り漏洩しないよう工夫されている。また利用者の地元の言葉を使うなど理解しやすいよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの時間を目安程度に設置し利用者の状況や天気などそのときそのときに応じた生活の支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者と準備片付けなどを行い提供されるままではなく、参加できる配慮がある。今後は時間と職員の配置など考慮されみんなで一緒に楽しみながらの食事の提供に工夫されたい。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、午後の3時から5時を目安に、利用者の状況や状態に応じて夜間を除き入浴できるように配慮されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活史を把握し利用者の状況や利用者の希望に応じた役割や、楽しみごとの支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は、予定ではなく利用者の希望や意向に添って提供されている。また近所の家に伺うなど工夫されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上玄関を施錠しているが個々の居室の鍵は、利用者の自由となっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て災害対策、避難訓練が定期的に行われている。大規模災害に備えた備蓄品の確保も月に一度職員が点検するなど保管状況へも配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事量や排泄に関して細かく記載されている。	○	今後は食事量などと同時に水分の摂取量についても把握され健康管理の一つの手段とすることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花などが配置されホーム内でも季節の変化が味わえるよう工夫し利用者に伝えられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力などを経て利用者馴染みの空間が清潔に保たれ提供されている。		